

三大プロジェクトに対して完全燃焼し、 新たなまちづくりへの期待にこたえよ

本市には、国の支援を受けた九州新幹線と有明海沿岸道路の建設及び三池港整備の三大プロジェクトに完全燃焼し、新たなまちづくりへの期待にこたえなければならない使命が課せられている。これらを生かすも殺すも、今後の市長のかじ取りに大きく左右されるとして、次のような質問があった。

三大プロジェクト 完成後のまちづくり

問 三大プロジェクトを生かした本市のまちづくりをどのように考えるか。

答 三大プロジェクトは、本市の未来に向けた貴重な財産であり、これらを有効活用し、市民の利便性の向上はもとより、企業誘致や地場産業の振興による定住人口の増加を図らなければならない。また、他の数多くの地域資源も十分にPRし、三大プロジェクトの活用による交流人口の拡大を目指すことも、今後のまちづくりには重要である。

三大プロジェクトの実現により、本市の有する潜在力は大きく底上げされ、産業振興や雇用創出のみならず、五十年後、百年後の本市の発展になくてはならない貴重な財産になるものと確信している。これからのまちづくりにおいても、様々なアイデアを出し合い、さらにまちづくりの可能性

を広げたい。

問 岩本交差点から南関インターチェンジまでの四車線化の早期実現について、見解を聞きたい。



完成が待たれる岩本交差点の改良

答 当該路線は、高速道路から市街地への東の玄関口でありながら二車線で、急勾配があり、歩道が狭い状況である。しかし、有明海沿岸道路、九州新幹線新大牟田駅及び南関インターチェンジを結ぶなど、本市のまちづくりにおいても非常に重要な路線であると認識している。これまでも県に整備を要望しており、県は二十三年度にかけて検討

することである。

市長の政治姿勢

市長が市民と約束したこと

問 古賀市政となり、七年が経過した。マニフェストに掲げた市民との約束が果たせていないこともあるかと思うがどうか。

答 行財政改革による財政再建を最重要課題として取り組み、懸命に行政運営を行った結果、市政全般にわたり、未来に向けた新しい芽が育ってきている。しかし、就任時に市民と約束した事柄の中には、厳しい経済情勢の中で、雇用の創出や中心市街地の活性化等、道半ばのものもあり、引き続き、全力を尽くしたい。

福祉行政

民生委員の役割と課題

問 民生委員・児童委員の改選が行われたが、欠員状

態でのスタートとなった。

民生委員不足は、今後さらに進むと危惧するが、この問題をどうとらえ、対処するのか。

答 一斉改選では、本市の定数二百九十八名に対し、二百八十八名が大臣委嘱を受けたが、十名の欠員となった。この欠員については、四月の定時委嘱に向け、地域と連携しながら人材の確保に全力を注ぐ。

欠員が続く背景として、民生委員・児童委員の公共性や地域性に対する期待から、各種調査や地域への伝達を含め、様々な役割が求められる。相談支援など本来の活動以外に時間を割かれることなどに大きな負担感があるとの指摘もある。

このため、住民が地域の福祉問題にかかわり、解決していく視点を持つことで、民生委員・児童委員のみが過大な負担感を背負うことなく、地域住民が支え合い、助け合う社会の構築が必要と考える。